

2000年11月14日

長野県環境保全協会 共同調査

環境 自分になにが可能か

報告書

(2000年8月18日~9月30日調査)

調査の設計	1
結果の概要	3
ポイント	4
単純集計	6
調査の結果	15
調査票	38



社団法人長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆ 調査の目的

「宇宙船地球号」という言葉が生まれて久しいが、ここ30～40年の間に私たちを取り巻く自然の環境も人間の環境も大きく変わった。知らない間に「環境」はやせてしまった。原発の放射能漏れ、産業廃棄物の“輸出”、ごみの爆発的な増加、ダイオキシン汚染や環境ホルモン...日々のニュースは「環境」問題の深刻さを伝えている。その一方で、川に魚が戻ってきたなどの明るいニュースも伝わってくる。

私たちは「環境」との間にどんな関係を取り結ぶべきなのか。そして、「環境」との間によりよい関係を結び直すためには、今ある状態を当然なものとして受け取っている限り、新たな方法論は生じない。自然の豊かさが大きな財産である長野県。そこに住む長野県民。私たちは次の世代にどのような「環境」を残すことができるか。

身のまわりから始めよう。そして考えよう<自分になにが可能か> これを探ることを狙いに、長野県環境保全協会との共同調査として行った。

◆ 調査の設計

調査対象	長野県内に住む20歳以上の男女1000人
抽出方法	層化二段無作為抽出法。対象者は各市町村の選挙人名簿から抽出
調査方法	郵送
調査期間	2000年8月18日～9月30日
調査地点	17市23町12村

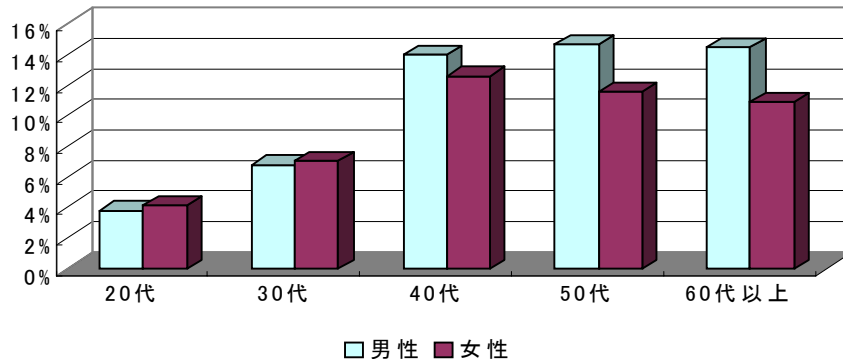
◆ 回収結果

有効回答数(%) 586人(58.6%)

◆ サンプルの内訳

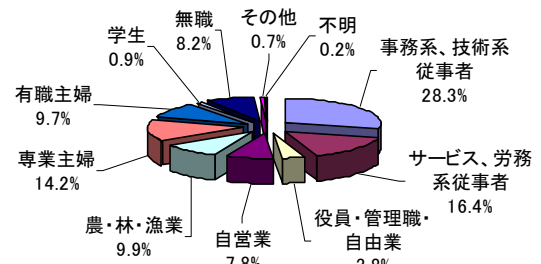
【性別と年代】

	全体	20代	30代	40代	50代	60代以上
男性	315	22	40	82	86	85
	53.8%	3.8%	6.8%	14.0%	14.7%	14.5%
女性	271	24	41	74	68	64
	46.2%	4.1%	7.0%	12.6%	11.6%	10.9%



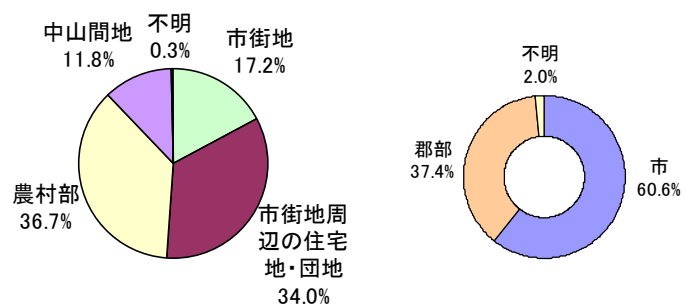
【職業】

事務系、技術系従事者	166	28.3%
サービス、労務系従事者	96	16.4%
役員・管理職・自由業	22	3.8%
自営業	46	7.8%
農・林・漁業	58	9.9%
専業主婦	83	14.2%
有職主婦	57	9.7%
学生	5	0.9%
無職	48	8.2%
その他	4	0.7%
不明	1	0.2%



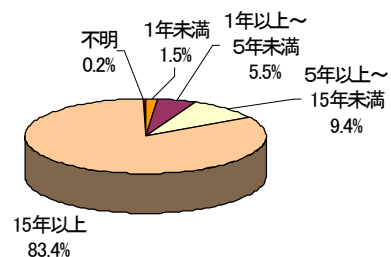
【居住地】

市街地	101	17.2%
市街地周辺の住宅地・団地	199	34.0%
農村部	215	36.7%
中山間地	69	11.8%
不明	2	0.3%



【県内居住年数】

1年未満	9	1.5%
1年以上～5年未満	32	5.5%
5年以上～15年未満	55	9.4%
15年以上	489	83.4%
不明	1	0.2%



パーセントの数字は小数点第二位で四捨五入

Ⅱ 結果の概要

① 環境問題への関心度とその内容

このところ、環境問題に関するさまざまな報道があったためか関心度は高く、「かなり」と「まあまあ」を合わせると 93%に達した。また、その内容も「ダイオキシン汚染や環境ホルモン」を筆頭に「ごみの増加」「地球の温暖化」など、多方面に及んでいる。さらに、環境問題に関する知識や情報を、テレビ・ラジオ、新聞から得ているとする人は8割を超えており、マスコミの役割の大きさを見せつけた。

② 積極的に取り組もうとする意識が強い

日常、環境保護に取り組みたいとする人は9割を上回り、不用品の資源化には実に97%近くが「協力したい」としている。このことは、適当な回路が開かれれば草の根からの環境保護運動が盛り上がる要素を内包していると言える。ごみの減量化などをめぐり、「家庭や職場で環境問題が話題になる」とするのは9割にのぼり、環境保護への取り組みにはほぼ94%が何らかの形で「かかわりたい」と答えた。さらに、環境を守るためにはある程度は個人の行動制限されたり負担が強まるのは「仕方がない」と65%の人が考えており、長野県民には積極的な意識が強いことをうかがわせた。

③ 日ごろの行動でも気配りが…

缶、びん、新聞、ペットボトルなどの不用品をリサイクルに出したり分別して収集に出すことに抵抗はなく、電気機器をこまめに消すといった身近な部分への気配りと行動は普及してきているようだ。しかし、地球温暖化のうで問題となっている二酸化炭素。その排出源のひとつである車の利用方法については、比較的低い数字しか出なかった。これは、県内の地形や交通事情、大型店の郊外化なども絡んでいるのだろうが、地球の温暖化や大気汚染への関心が高いことと併せて考えると、総論と各論の調整の難しさを感じさせる。

④ 県や市町村は施策に「もう少し力を入れて」

緑が多いことに6割以上が満足感を抱き、9割近くの住民がいま住んでいる地域に愛着を感じている長野県。だが、県民の評価は甘くなかった。県や市町村は環境行政に「もう少し力を入れて」が約36%。「全国レベルに比べて進んでいる」と見ているのはごく少数派だ。施設や道路の障害者への配慮、子どもの遊び場、スポーツ・文化施設の多さなどへの満足度は低い。一方、環境にやさしい商品を購入する際の減税や助成制度の拡充、子どもに対してだけでなく、大人にも環境教育を望むとするのが3割強ある。行政はハード・ソフトの両面から課題を与えられているとみるべきだろう。

⑤ 変わるか？ 個人の生活の意識とそのスタイル

安売り店が繁盛する一方で、環境に配慮した商品なら「価格が多少高くても利用したい」、日常生活に「これ以上の便利さを求める必要はない」と、半数近くの人が思っている。重宝でも使い捨て商品をそうは「使いたいと思わない」人は7割近くにのぼっている。長く慣れ親しんできた大量生産・大量消費の時代は、果たして終わるのだろうか。また、若い世代は生まれたときから豊さがあつた。地球という大いなる環境の中で、人々は生活の意識とそのスタイルを転換しようとしている一端が、この調査にうかがわせた。

Ⅲ ポイント

A 50代、突出する地域への愛着心

		標本数(人)	強く感じて いる	まあ感じて いる	あまり感じな い	まったく感じ ない	なんともいえ ない
全 体		586 100.0	204 34.8	301 51.4	58 9.9	7 1.2	16 2.7
年 齢	20代	46	28.3	52.2	19.6	-	-
	30代	81	21.0	63.0	12.4	1.2	2.5
	40代	156	26.3	56.4	12.8	1.3	3.2
	50代	154	41.6	50.0	5.2	0.7	2.6
	60代以上	149	46.3	40.9	7.4	2.0	3.4

働き盛り、分別盛りとあってか、50代の行政への不満感や「環境」への意識と行動への意欲の強さは他の年代を圧倒するかの勢いがある。なかでも、環境問題への関心が「かなりある」の中では50代が34%を占め、8割近くが個人の行動制限や負担の増加を覚悟している。

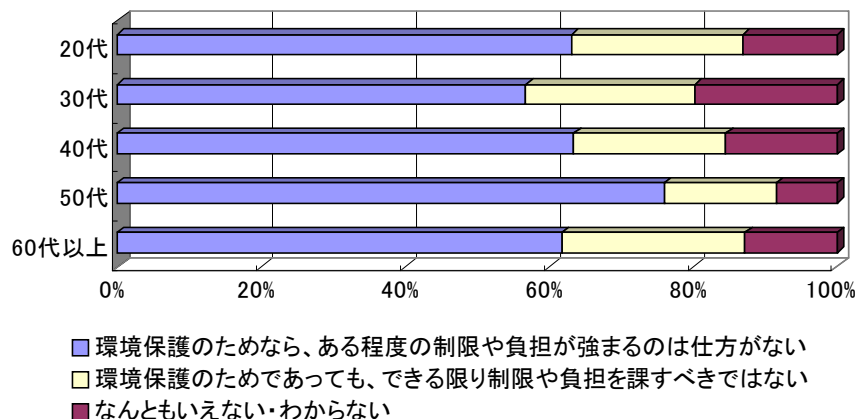
8割近くが行動制限や負担の増加を覚悟

50代で地域への愛着を感じている人は「かなり」「まあ」を合わせて9割を超し、他の年代と比べて突出している。この年代のほぼ4割が農村部の住人で、居住年数も比較的長いことに、原因の一端がうかがわれる。

50代といえば、職場でも責任ある地位にある人が多いと思われるが、環境保護のためには企業の負担を「もっと増やすべきだ」と64%が思っている。これは20代の約70%に次ぐ高い比率だ。

年代を全般的に見渡すと、環境問題の関心に30代が「屋内建材などによる健康被害」、環境問題の話題の中身に40代が「洗剤などによる水質汚染」、環境行政への希望に60代が「啓発の強化」を挙げているのが目立つ。20代は燃料効率や急発進など、車関係にも気を配って環境を守る行動を考えている様子がうかがわれる。

◆ 年代別による違い -行動の制限や費用負担の増加-



B 職業によりさまざまな側面

		標本数 (人)	事務系、 技術系従事者	サー ビス、 労務系従事者	役員・ 管理職・自由業	自 営業	農・ 林・ 漁業	専 業主婦	有 職主 婦	学 生	無 職	そ の 他	不 明
全 体		586 100.0	166 28.3	96 16.4	22 3.8	46 7.9	58 9.9	83 14.2	57 9.7	5 0.9	48 8.2	4 0.7	1 0.2
関 心 度	かなり関心がある	207	30.4	10.1	5.3	7.7	12.1	15.0	7.7	-	11.6	-	-
	まあまあ関心がある	338	27.5	20.4	3.0	6.8	9.5	13.9	11.0	1.5	5.6	0.9	-
	なんともいえない	28	17.9	17.9	3.6	25.0	3.6	10.7	14.3	-	7.1	-	-
	あまり関心はない	12	41.7	8.3	-	-	-	16.7	-	-	25.0	8.3	-

環境問題への関心の度合いや取り組もうとする姿勢は、職業によりさまざまだ。「かなり関心がある」の中で、事務系が占める割合は30%強、自営業は8%弱。「あまり関心はない」と答えた人のうち、事務系は4割強だったのに対して、自営業や農・林・漁業は

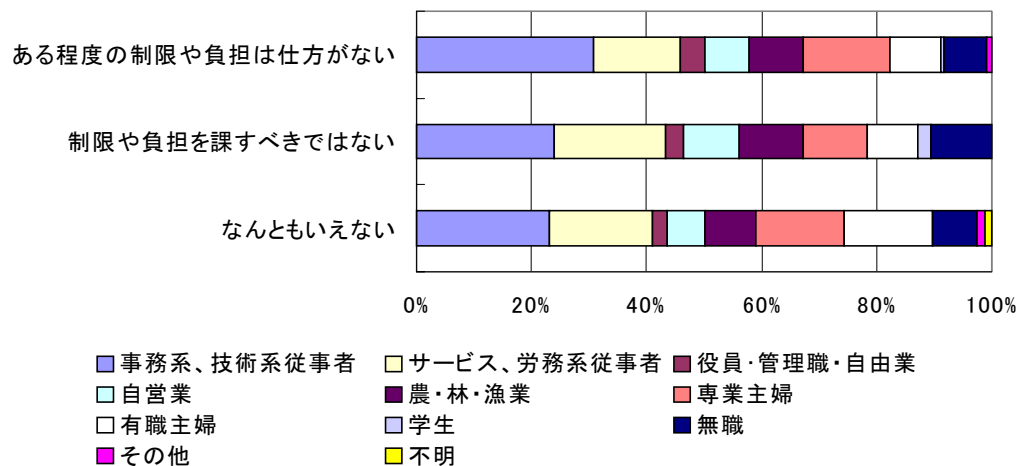
環境問題に「かなり関心」比率高い事務系

ゼロといった具合だ。

また、環境保護のために、個人の行動がある程度制限されたり負担が強まることに対して「可」とする中で占める割合は、事務系で約31%、「不可」はほぼ24%。これが有職主婦になると、ともに9%未満にとどまる。

専業主婦で見ると、県や市町村の環境行政が全国レベルに比べて「進んでいる」の中で占める割合は30%弱、「遅れている」は17%を占め、各職業を通じて比較的高い。行政の取り組みを「遅れている」と見る人の2割以上を占めるサービス系には、地域への愛着心を「まったく感じない」が3割近くある。

◆ 職業による違い -行動の制限や費用負担の増加-



IV 単純集計

◆環境問題に関心がある 9割を超す

問1 あなたは、環境問題にどの程度関心がありますか		
かなり関心がある	207	35.3%
まあまあ関心がある	338	57.7%
なんともいえない	28	4.8%
あまり関心はない	12	2.0%
全く関心がない	0	0.0%
不明	1	0.2%

◆関心集中する「ダイオキシン」「ごみの増加」

問2 <問1で「関心がある」とお答えの人に> 環境問題について、あなたの関心があるのはどんなことですか。(3つ以内)		
ダイオキシン汚染・環境ホルモンによる影響	288	52.8%
ごみの増加	282	51.7%
地球の温暖化	262	48.1%
河川・湖沼の汚染	212	38.9%
身近な自然の減少・荒廃	119	21.8%
大気汚染	100	18.3%
農作物の農薬使用	75	13.8%
原子力発電所の事故や放射能漏れ	69	12.7%
酸性雨による森林や農作物への影響	44	8.1%
熱帯林の減少・砂漠の拡大	40	7.3%
野生動植物の種の減少	37	6.8%
開発途上国の公害・有害廃棄物の越境移動	34	6.2%
屋内建材など化学物質の健康被害	31	5.7%
海洋汚染	25	4.6%
その他	3	0.6%
とくにない	0	0.0%

◆情報は主にテレビ・ラジオ、新聞から

問3 あなたは、環境の汚染、保護に関する知識や情報を、主にどんなことから得ていますか (2つ以内)		
テレビ・ラジオ	501	85.5%
新聞	492	84.0%
雑誌や書籍	81	13.8%
口コミや雑談	36	6.1%
市民大学や講演会などの社会教育	20	3.4%
学校教育	5	0.9%
インターネット	5	0.9%
パンフレット	4	0.7%
その他	12	2.0%
とくにない	0	0.0%
不明	1	0.2%

◆環境問題、9割が「家庭や職場で話題になる」

問4 あなたの家庭や職場で、環境問題が話題になることがありますか		
かなりある	144	24.6%
たまにはある	386	65.9%
ほとんどない	47	8.0%
なんともいえない	9	1.5%

◆環境問題の話題、半数近くが「ごみ減量化」

問5 <問4で「話題になることがある」とお答えの人に> それは主にどんな問題ですか。 (2つ以内)		
ごみ収集などの減量化対策	261	49.2%
車の排ガスやごみ焼却など大気汚染	173	32.6%
地球環境の全般的なこと	165	31.1%
身近な自然環境	132	24.9%
国や県、市町村の環境行政	125	23.6%
洗剤や家庭雑排水など水質汚染	110	20.8%
自然エネルギーの活用	30	5.7%
振動や騒音、日当たりなど住環境	21	4.0%
その他	10	1.9%
とくにない	2	0.4%
不明	3	0.6%

◆環境保護「かかわりたくない」はごく少数

問 6 あなたは、日ごろの生活で、環境保護のために、どのように取り組みたいと考えていますか。 次の中から1つだけお答えください		
積極的にかかわりたい	62	10.6%
できる範囲内でかかわりたい	488	83.3%
なるべくかかわりたくない	11	1.9%
全くかかわりたくない	0	0.0%
どちらともいえない・わからない	25	4.3%

◆不用品の資源化、ほぼ全員「協力したい」

問 7 家庭から出る不用品をごみとして出さず、資源として活用することについて、あなたはどのように思いますか		
積極的に協力したい	212	36.2%
できるだけ協力したい	352	60.1%
協力できそうにない	9	1.5%
わからない	10	1.7%
不明	3	0.5%

◆「協力できない」は保管場所にも原因

問 8 <問7で「協力できそうにない」とお答えの人に> それはどのような理由からですか。 主な理由を1つだけ挙げてください		
資源物を保管しておく場所がないから	4	44.4%
面倒だから	2	22.2%
資源化する必要を感じないから	0	0.0%
資源として出すところがないから	0	0.0%
その他	2	22.2%
なんともいえない・わからない	1	11.1%

◆分類に協力、缶・びん・新聞が上位に並ぶ

問 9 あなたは、資源への活用のため分別収集を行う場合、不用品を分類して出すことに協力しやすいのはどれですか。(5つ以内)		
缶	502	85.7%
びん	474	80.9%
新聞	470	80.2%
ペットボトル	314	53.6%
雑誌	287	49.0%
段ボール	177	30.2%
牛乳などの紙パック	162	27.6%
乾電池	159	27.1%
衣類	85	14.5%
トレイ	82	14.0%
発泡スチロール	70	11.9%
プラスチック類	52	8.9%
廃食用油	15	2.6%
その他	1	0.2%
協力できるものはない	0	0.0%
なんともいえない	2	0.3%
不明	3	0.5%

◆不用品再生のルート「地区の回収場所へ」が圧倒的

問 10 不用品を資源再生のために回す際は、主にどんな方法、ルートを使っていますか (3つ以内)		
地区の回収の場所に出す	566	96.6%
町会やPTAなどの集団回収に回す	468	79.9%
販売店に出す	196	33.4%
回収業者に出す	149	25.4%
バザーやフリーマーケットに出す	95	16.2%
リフォームする	29	4.9%
その他	6	1.0%
とくにない	7	1.2%
不明	1	0.2%

◆リサイクル推進、知名度高い「エコマーク」

問 11 あなたは、ごみ減量化・リサイクル推進に向けた取り組みで、次の名称について、だいたい内容を知っているものをすべて挙げてください		
エコマーク	435	74.2%
エコショップ	321	54.8%
マイ・バッグ・キャンペーン	285	48.6%
コンポスト	252	43.0%
リタ ナブルびん	246	42.0%
デポジット制度	170	29.0%
すべて知らない	90	15.4%

◆リサイクルのための情報、6割が「製品」に

問 12 あなたは、リサイクルのための情報で知りたいと思うのはどのようなことですか。(3つ以内)		
リサイクル製品の情報	351	59.9%
リサイクルショップの情報	291	49.7%
ごみの出し方	248	42.3%
不用品交換の情報	243	41.5%
フリーマーケットなどの開催情報	144	24.6%
リサイクル関係団体などの活動状況	121	20.6%
その他	5	0.9%
とくにない	39	6.7%
不明	8	1.4%

◆環境保護のため「ある程度の制限・負担」容認派が多数

問 13 あなたは、環境保護のために個人の行動が制限されたり、費用負担が増加することについて、どのようにお考えになりますか		
環境保護のためなら、ある程度の制限や負担が強まるのは仕方がない	383	65.4%
環境保護のためであっても、できる限り制限や負担を課すべきではない	125	21.3%
なんともいえない・わからない	78	13.3%

◆環境を守る行動「リサイクル」を重視

問 14 環境を大切にするために、あなたが現在優先的に行っていること、あるいはこれから行おうと考えていることは何ですか。(3つ以内)		
缶・びん・トレイなどはリサイクルに出す	331	56.5%
蛍光灯や電気機器をこまめに消すなどエネルギーの無駄を省く	291	49.7%
車で待つ間や荷物の積み下ろしをするときはエンジンを止める	196	33.4%
冷暖房を控えめにする	142	24.2%
車の急発進や空ぶかしを控える	107	18.3%
レジの袋やブックカバーをもらわない	100	17.1%
テレビなど家電製品は省電力型を選んで購入する	96	16.4%
燃料効率のよい自動車を利用する	80	13.7%
バスや電車などの公共交通機関や自転車を利用し、車の使用を控える	67	11.4%
太陽熱や太陽光・風力など自然の力をなるべく利用する	64	10.9%
3階程度の昇り降りはなるべく階段を使う	62	10.6%
日用雑貨などは再生品など環境に配慮した製品を購入する	59	10.1%
合成洗剤はなるべく使わない	52	8.9%
住居の断熱効果を高める	33	5.6%
その他	3	0.5%
とくにない	4	0.7%
不明	1	0.2%

◆地域への愛着、86%が「感じている」

問 15 あなたは、いま住んでいる地域に愛着を感じていますか		
強く感じている	204	34.8%
まあ感じている	301	51.4%
あまり感じない	58	9.9%
まったく感じない	7	1.2%
なんともいえない	16	2.7%

◆生活環境の満足点、群を抜く「緑の多さ」

問 16 あなたは、現在お住まいの地域の生活環境について、どんな点に満足していますか。 (3つ以内)		
緑の多さ	373	63.7%
全体としての「暮らしやすさ」	237	40.4%
買い物の便	143	24.4%
治安のよさ	125	21.3%
通勤・通学の利便	120	20.5%
近所付き合い	101	17.2%
医院や病院の利便	89	15.2%
公害の状況	75	12.8%
お宅の住宅事情	51	8.7%
道路の整備・交通の安全性	49	8.4%
家並み・街並み	28	4.8%
公園の子どもの遊び場	20	3.4%
スポーツ・文化施設の多さ	15	2.6%
子どもの体験学習の場	12	2.0%
施設や道路の障害者への配慮	7	1.2%
満足できることはない	12	2.0%
その他	6	1.0%
不明	6	1.0%

◆県下の環境行政、「進んでいる」は5%に届かず

問 17 あなたは、環境対策の行政について、県やあなたがお住まいの市町村の取り組みを、どう受けとめていますか。次ぎの中から1つだけお答えください		
全国レベルに比べて進んでいる	28	4.8%
全国レベルと変わらないと思う	173	29.5%
もう少し力を入れてほしい	210	35.8%
取り組みがかなり遅れている	70	11.9%
その他	1	0.2%
なんともいえない・わからない	102	17.4%
不明	2	0.3%

◆環境行政に「減税や助成制度の拡充」4割望む

問 18 あなたは、環境保護を推進するためには、行政の施策に主として何を望みますか。 (3つ以内)		
環境にやさしい商品（低公害車など）を購入する歳の減税や助成制度の拡充	229	39.1%
環境にやさしい商品や企業についての情報提供	215	36.7%
大人に対する地域、職場などの環境教育	186	31.7%
子どもに対する学校などの環境教育	185	31.6%
リサイクル制度の確立	178	30.4%
企業や個人に対する規制	111	18.9%
環境保護に取り組むために必要な事業活動にたいする融資制度の新設	108	18.4%
広報やパンフレットなどによる啓発の強化	103	17.6%
環境に関する情報を手軽に入手できるシステムの整備	76	13.0%
活動団体の所在や活動内容に関する情報	54	9.2%
環境保護活動のリーダーとなる人材の育成	51	8.7%
フォーラムや学習会などの開催	32	5.5%
環境税や課徴金などの導入	29	4.9%
その他	9	1.5%
とくにない・わからない	17	2.9%
不明	4	0.7%

◆環境に配慮した商品、半数が「多少高くても利用」

問 19 あなたは、環境問題に関する次のような意見について、どのように考えますか		
A 環境に配慮した商品なら、価格が多少高くても利用したい		
そう思う	283	48.3%
そうは思わない	126	21.5%
なんともいえない	176	30.0%
不明	1	0.2%

◆使い捨て商品「もっと使いたい」は1割強

B 使い捨て商品は重宝するので、もっと使うようにしたい		
そう思う	67	11.4%
そうは思わない	417	71.2%
なんともいえない	101	17.2%
不明	1	0.2%

◆食べ残しは“疑問”65%近くに

C 食べ残しは個人の都合だから、あれこれいうべきでない		
そう思う	63	10.8%
そうは思わない	380	64.8%
なんともいえない	142	24.2%
不明	1	0.2%

◆日常生活「これ以上便利さ必要ない」ほぼ半数

D 日常生活では、これ以上便利さを求める必要はない		
そう思う	285	48.6%
そうは思わない	156	26.6%
なんともいえない	144	24.6%
不明	1	0.2%

◆「環境対策のために企業の負担増を」6割

E 環境対策のために、企業の負担をもっと増やすべきだ		
そう思う	348	59.4%
そうは思わない	55	9.4%
なんともいえない	182	31.1%
不明	1	0.2%